

課題番号3

課題名	重点課題3 農業ビジネスを加速させる技術開発・普及・農地利用の促進 労働力不足の解消に向けたスマート農業実証	
対象： 特定非営利活動法人太子町ぶどう塾126名	計画期間：R2	事務所名：南河内農と緑の総合事務所
普及課題	活動方法	活動成果（達成率）
果樹産地に適した新たな機器開発・導入	スマート機器導入実証 ・ロボット、ドローン等の現地実証	①運搬ロボット・時間33%削減 ②草刈ロボット・時間68%削減 ③農薬散布ロボット・労働力50%削減 ④農薬散布ドローン・散布時間86%削減等

総合評価（コメント）
<p>A：3名 B：4名</p> <p>■これまでの普及活動の到達状況をふまえた取組である。課題設定ならびに計画目標ともに適切かつ妥当であり、普及活動を通じて産地規模の維持発展が期待される。</p> <p>■過剰投資の機器を導入して労働時間が改善されても、機器導入は進まず、目標達成は難しい。導入機器の費用対効果を考え、優先順位をつけ、機器の普及が期待できる取捨選択を提示するなど、提言が欲しいと思う。</p> <p>■取り組んでいる実証事業は既存生産者の工数改善を主体的に進めていたり、応援隊の取組が、遊休地の改善に直接繋がる施策になっているとは感じられない。遊休地を減らす活動として、新規就農者の売上、年収、利益等、魅力あるモデルを打ち出す部分の取組が明確に行われていないと感じる。</p> <p>■真の目標に向けた個々の小さな取組ごとの目標設定とそれらに対する活動成果をあげられており、それは評価できるが、全体的な「遊休化防止」「担い手の規模拡大」が検証されていない感じがする。実験者視点での目標設定と活動成果評価となってしまう感があり、もう少し生産者視点での評価が必要ではないか。</p> <p>■産地規模維持のための取組については描かれており、その一つの手段としてのスマート農業による労働力不足の解消はあると思うが、より具体的に産地形成のプロセスを設定する必要がある。</p> <p>■適切にテーマ設定し、一定の成果もあげている。一方で今後は、産地の維持に欠かせない新たな担い手確保の目標を設けても良いのではないか。</p>

評価 A: おおむね適切である。 B: 部分的に検討が必要である。 C: 見直しが必要である。

普及指導計画への反映状況等
<p>■本年度は、取組初年度ということもあり、省力化が期待できる機器類の性能、地域への適合性を中心に評価しました。今後は、これらの成果とともに各委員からいただきました意見を参考に、担い手を育成するために、また、産地を維持するために何から優先して取り組むかを検討し、普及計画等へ反映させていきたいと思っております。</p>